

干支学からみる戌年の傾向

著述業（高島易著者）井上 象英氏

卓話者紹介

井上先生は東京恵比寿 RC の会員で、東京商工会議所 女性会理事も務められています。今回で7回目の卓話になります。

田邊 恵三会員



基本星（記号）

現在、私たちが使用する年号は「平成」です。しかし、運氣や運勢などを知る為にはその年や月、そして日々に対応されている和暦（干支暦）を知る必要があります。古代中国「殷」の時代から使用されている暦は「自然周期学」と称され、宇宙の有り様は神の領域でもありましたが、孔子も孟子もその達人だったのです。これらの星が様々に組み合わせられ、配置されることにより起きる自然のメカニズムが、数百年と経過することにより一定の条件が調った時、発生する自然災害を天災と言います。また、事件や社会情勢など、人間の運氣やバイオリズムにも深く関わりを持つと云うことが解明されております。そこで最も暦に必要な記号が「十干」と「十二支」と「九星」であります。

干（かん）：10種類（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）

支（し）：12種類（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）

星（ほし）：9種類（一白・二黒・三碧・四緑・五黄・六白・七赤・八白・九紫）その組み合わせは大きく分別して「36」、「60」、「180」通りになります。

十干と五行の関係

「五行」は地球自然界の構成要素で、木・火・土・金・水の五つの気（星）を指し、水を万物の基礎としています。「十干」は太陽の作用で10日に一巡する天の気。気候や人の精神面に影響します。

陽（○） 甲（木のえ） 丙（火のえ） 戊（土のえ）
庚（金のえ） 壬（水のえ）

陰（●） 乙（木のと） 丁（火のと） 己（土のと）
辛（金のと） 癸（水のと）

十二支と月

丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

10月 11月 12月

「十二支」は季節の12ヶ月を表し、一年の周期現象。12日に一巡する地の気です。農耕や経済面に影響します。また天干（幹）に対し地支（枝）としての役割があります。

この「干支学」は、太陽の出没と深く関連し、万物の芽生えから成長、繁栄、衰退、消滅までの活動、物事や自然の変化の実体とそのプロセスを分類し説明したものであり、農耕社会におけるリーダーの心得でもありました。その内容は、自然の仕組みを背景に人生の在り方、暮らしの指針を表わしています。そして、人間が自然と共に暮すための「人道の心」と「あらかじめ準備する」心得を、干支学を通して説明しています。

2018年（平成30年）

戊戌：九紫火気性（つちのえ・いぬ・きゅうし）

戊（ボ）——「土の兄」で方位は中央にあって四季の土用に当たります。その意義は「茂」で属性は「繁」。象形では「矛」を象り、昨年丁に引き続き草木が繁茂する様子。また、易には「戊は茂、物皆繁茂」とあり、虫食いや葉枯れ現象を予測して鎌や鉞のような刃の付いた戊で枝切や植え替えを示唆しています。

戌（ジュ）（陽土）——11番目の地支。土に属し、時刻

では午後七時～九時の間。方位は西北西。季節は晩秋。象形は「戌」と「一陽」の会意文字からなり、その働きは「滅」で万物が消滅して土に帰る意味をさします。ただ「鉞」の象意を含むので、根上りや蔓延した枝を伐採剪定する作業が伴う時期をも指します。

九紫火気性 ——南に位置し属性は「火気」。易卦では離（☲）で徳性は「明智」。他人を知るのが智、己の事を知るのは明です。とくに万物が太陽の恵みを受けて成長する様を表わし、暖かみと知才を暗示する星でもあります。反面、卦象は「火」なので、事実の明白性と飛散、神秘的な感覚性が特徴と言えます。

態勢・・・「戌」も「戌」も繁茂と伐採とがキーワードですが、九紫の火は「知才」が象意。そこで八方位を見渡すと、南の四緑に暗剣殺が巡り辰の方に歳破が同座するので、世界の大国が時代の流れを知覚する時と雖も、国政万事に油断は出来ません。そして戌は「滅なり」なので、陽気は下り地に入る為、鉞で雑草（役立たず）を刈り取る暗示となります。ただ、戌は発芽した新芽が勢いよく成長する働きで、左右に繁茂し盛大になること。つまり国の態勢は、組長政治や政党政治の時代は危機を迎えるか、変貌して意外な形で成長するかも知れません。時としてバツサリ切られて黙殺される社会問題もありそうですが、切り落とされた枝葉（不採算事業）は、隠蔽されていた利権や慣習にメスが入り、体質改善の緊急治療の雲行きに。ただ戌年は、更なる荒治療があるかも知れません。それは「業界に在り、これは経済界に想定外の問題を孕みそうです。

干支や星が重なる 過去の歴史

*天保9年（戊戌・九紫）：武家諸法度頒布。江戸城西の丸炎上。倭約令。アフガン戦争。

*明治7年（甲戌・九紫）：愛国公党創立。佐賀の乱。屯田兵制度。農民一揆。徴兵制。

*明治31年（戊戌・三碧）：伊藤内閣総辞職。総選挙二回。政党内閣誕生。ストライキ。

*昭和3年（戊辰・九紫）：解散総選挙。張作霖暗殺。魚河岸移転疑国事件。昭和天皇即位。

*昭和21年（丙戌・九紫）：天皇人間宣言。総選挙後幣原内閣総辞職。日本国憲法公布。

*昭和33年（戊戌・六白）：岸内閣誕生。道徳教育義務化。南海丸沈没。皇太子妃決定。

*昭和57年（壬戌・九紫）：比例代表制開始。日航機墜落事故。ホテル火災。産業スパイ。

戌年や九紫年の傾

『丁酉年は、政治構造の再編があるかも知れません。新旧体制のぶつかり合いは欲望のエネルギーになって利己主義に。仁義どころではない。縦の人間関係が希薄になり常識の線引きも難しい。そこで、どの分野に於いても「質」が問われる暗示です』これは昨年講演資料の一文です。正しく政治の在り方が問われた一年でした。また、アメリカ、欧州、アジア圏でも想定外の事件や変革、自然の脅威を実感させられましたが、複雑な外交問題や混迷した情報の精査は更に難しくなるでしょう。官民の組織力をもってしても、煩わしい議論に振り回され、AI時代を迎え、排除か合意の英断が求められそうです。南に暗剣殺が巡るので“虚偽”や“秘密の暴露”は続くでしょう。自然界では、地上と上空との気温差が原因しての異常気象、不安定な空模様は洪水を増幅する可能性があります。感染症、アレルギー疾患、亥年まで続く地震のサイクルは噴火の周期とも重なるので、教訓を活かした防災が必要と言えます。

閉会点鐘

牛島 聡会長

今後の予定

1/31「ワインのもう一つの楽しみ方」
ル・サロン ワイン講師 渡邊 美洋子氏